

プロになるということ

企業の一員となった瞬間から  
あなたは「プロ」です

お客さん（取引先）は  
プロに依頼して対価を払う



三井淳平 / Jumpei Mitsui

@Jumpei\_Mitsui



## 考えてからでは遅すぎる

144

1.3万

8.7万

2,875万



私は世界に24人しかいないプロのレゴビルダーの一人なのですが、去年、東京藝術大学の大学院に入学しました。

タイトルにある「**考えてからでは遅すぎる**」というのは「考えるよりもまず行動しろ」というように聞こえるかもしれませんが、**全く異なるニュアンス**です。藝大に入ったことをきっかけに実感した一つの考えを、ここでシェアしたいと思います。

# 要約

- 1. 「考えてから作る」は、実は一番むずかしい**
  - 技術が足りないと、発想する余裕が消える
- 2. 手が止まる原因は「センス」ではなく「未自動化」**
  - 正しく描こうとするほど、アイデアは出なくなる
- 3. 上達とは、考えずに作れるようになること**
  - 技術が無意識化すると、表現の速度が跳ね上がる
- 4. 無意識の手が、創造的な頭を自由にする**
  - だからプロは「作りながら考えられる」
- 5. 本当に考えるべきなのは「どう作るか」ではない**
  - 「なぜ面白いか」「何を伝えたいか」



引地耕太 | VISIONs CEO / COMMONs 代表 

@kouta\_hikichi



**AI時代における「作る人」と「考える人」を分けるという古い発想**

 5

 318

 1,488

 43万



# 要約

**AI時代に「考えるだけの人」は真っ先に消える**

— ディレクションだけ、という幻想

**作れないうちは、本当には考えられない**

— 技術が未熟だと「正しさ」に脳を奪われる

**作りすぎると、思考が解放される**

— スキルが身体化した瞬間に視野が広がる

**ディレクションとは、未来を読む判断力**

— センスではなく、制作経験が圧縮されたデータ

**AI時代に残るのは「作れるディレクター」だけ**

— 捨てる・賭ける・決断する責任を引き受ける人

ひたすら作ることが  
プロへの最短コース

# 1万時間の法則

# 1万時間の法則とは

1万時間の法則とは、ある分野で一流になるためには約1万時間の継続的な練習が必要だ、という考え方です。

ただし重要なのは、技術を覚えること自体ではありません。繰り返し手を動かすことで、考えなくても正しく作れる状態、つまりスキルが身体に染み込んだ段階に到達することが本質です。そこではじめて、脳のリソースを「どう作るか」ではなく、「なぜ作るのか」「どうすれば面白くなるのか」といった創造的な思考に使えるようになります。

「3年続けなさい」というコトバ

# 1万時間の法則との繋がり

週6日（土曜含む）

10時間×52週

3年

9,360時間！

# 昔と今の違い

「終身雇用」が基本。転職が難しい  
「スキルの可視化」がされていない  
覚える、書く、見て学ぶ

転職、副業がしやすい  
ポートフォリオ等の制作が容易  
仕事のドキュメント化

プロとして

いつか一緒にお仕事しましょう